

学年児童集会について

足利市立柳原小学校教諭 小 高 良 夫

(1) はじめに

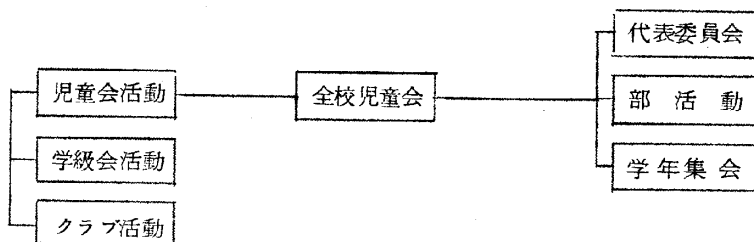
わたしどもの学校では、特別教育活動の集会活動として、児童会としては、全校児童集会、学年児童集会（以下学年集会）の2集会と、学級会活動での学級集会のつごう3集会を実施している。

集会活動は「自分の所属する団体の生活をより楽しく豊かにするために、いろいろな集会を自主的に計画し、実施する。」とされている。全校児童集会は、総会や朝の全校児童会で、学校集会は、学級会活動等で比較的いずれの学校でも、計画的にもたれているものである。しかしそのなかにおいて、「学年の全児童が会合して、協議、伝達、レクリエーションなどの活動を行なう」学年集会は、必要性は認められているものの、現在まであまり手のくだされていなかった活動である。

本校においても、一昨年まではまったく未開拓の分野であったが、学級数の多い本校では、特に学年内の児童の連絡や、協力を密にしていく必要を痛切に感じ、その手段のひとつとして、学年集会の実施にふみきり、本年で2年目を迎えたのである。そして、その目標を達成するための具体的手段として、「より楽しい学年集会」を合言葉に努力し、今日に至ったわけである。しかし、参考文献、特活先進校でも、あまりその例をみないので、本校独自の考え方で進めてきたので、う余曲折しながらも、2年目を迎えた今日、本校の「学年集会」として、やや定着してきたように感じているのである。

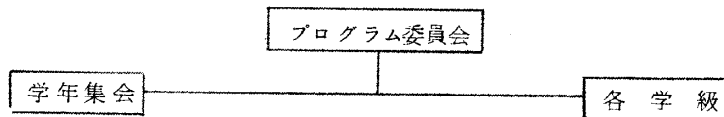
(2) 学年集会の位置づけ

◦特別教育活動全般の組織



本校において学年集会は、学級会、クラブと並列に位置づけられている児童会の下部組織として、代表委員会、部活動と並列に位置づけている。

◦学年集会の組織



プログラム委員会は、中・高学年においては教師、児童（学年正副委員長、学級代表各クラス2名）で組織している。

その活動内容は

①実施計画作成 \

- ②集会運営の中心 }
 ③実施記録と反省 } などの活動を行なう。

委員会は、定例として、第2金曜日の放課後（集会1週間前）にもつようにしている。

(3) 参加対象学年および配当時間

特別教育活動の時間数および配当時間は、市紀要90「特別教育活動（学級会活動）年間指導計画」を参考にして、本校の実情に応じ次のようにとっている。

| 学 年 別 | | 低 | 中 | 高 |
|-----------|---------|------------------|-----|-----|
| 種 別 | | | | |
| 学 級 会 活 動 | | 1年 2年 3 4 3 5 | 3 5 | 3 5 |
| ク ラ ブ 活 動 | | | | 2 5 |
| 児 童 会 活 動 | 部 活 動 | | | 1 0 |
| | 集 会 活 動 | 1 0 | 1 0 | 1 0 |
| 計 | | 1年 2年 4 4 4 5 | 4 5 | 8 0 |

学年集会は、上記の表の集会の集会活動、年間10時間のうち3時間（1回10分年間12回）を当て、対象学年は、1年から6年まで全学年としている。

(4) 活動時刻および活動場所

学年集会は、各学年ともに、4月から3月までを活動期間とし、定例として、毎月第3金曜日の朝、年間12回を予定している。（臨時的集会もある）これを1日の授業時刻表でみると次のようになる。

○授業時刻表 3号表12月～3月

| | | |
|---|---------------------|-----|
| 職 員 出 勤 | 8 : 4 0 | |
| 清 掃 火 木 土 職 員 朝 礼 月 水 金 | 8 : 4 5 ~ 8 : 5 5 | 1 0 |
| 職 員 朝 礼 ・ 自 習 火 木 土 安 全 教 育 水 ・ 学 年 集 会 第 3 金 集 団 行 動 そ の 他 の 金 | 8 : 5 5 ~ 9 : 1 5 | 2 0 |
| 第 1 時 | 9 : 1 5 ~ 1 0 : 0 0 | 4 5 |

学年集会活動時刻は、上記の表の3段目の8:55～9:15の20分間である。これは20分間時間をとってあるので、ほぼ10分間を予定している学年集会では、多少集会がのびても、第1時の授業にくいこむことはまずない時間帯である。

○実施場所

実施場所は、6年講堂、5年は5年昇降口、前校庭というように、互いに、活動のじゃまにならぬようじゅうぶん距離をとり、それぞれの学年の教室に近い場所を選び、年間を通じて使用している。これは集合、解散して教室への時間の短縮にも結びつき、第1校時の授業へのくいこみを防ぐことに役だっている。

⑤ 学年別ねらいおよび期待される学年別能力段階

本校では、各学年における発達段階に応じ、「特別教育活動全体計画」に、学年集会における学年別のねらいおよび具体的内容を設定し、各学年の学年集会の指導助言上の参考資料としている。しかし、これはあくまで一応の基準であり、めやすであって、到達目標といった堅苦しいものではない。

○印—ねらい ・印—能力段階

1年

- 教師が計画をたて、全員が楽しく集会に参加できるようにする。
- ・学年集会の企画、運営は教師による。
- ・みんなで、仲よく楽しく参加できる。

2年

- 教師が中心になって計画をたて、全員が進んで楽しく集会に参加できるようにする。
- ・学年集会の企画運営は教師が中心とする。
- ・静かに最後まで見たり、聞いたりできる。
- ・集会に必要な係りをおくことができる。

3年

- 教師の助言を得て計画をたて、全員が進んで参加し、楽しくやることができるようにする。
- ・学年集会の企画は児童と教師で計画し、運営は教師の助言を得て、児童が行なうことができる。

4年

- 自分たちの計画した集会に、全員が進んで参加して、楽しくやることができるようにする。
- ・教師の助言を得て、年間の学年集会を運営し、学年集会の計画を決めることができる。
- ・リーダーを中心に集会を運営し、学年全員が楽しく集会ができる。
- ・集会の反省をして、次に生かすことができる。

5年

- 児童たちの協議によって計画し、よりよい集会ができるようにする。
- ・年間計画をたてることができる。
- ・自分たちで内容を決め、集会を運営することができる。
- ・集会の反省をして、次の集会をよりよくすることができる。

6年

- 児童たちが協議によって計画し、効果的な集会ができるようにする。
- ・学年集会の反省を通じて、年間計画をたてることができる。
- ・自主的に内容を決め、集会を運営することができる。
- ・内容・運営について評価し、その結果に基づいてよりよい集会ができる。

以上がねらいと能力段階であるが、一口にいうと、1・2年は、教師を中心とした準備の段階の学年集会、3・4年は、教師の強力な助言のもと、児童が企画運営する段階の学年集会であり、5・6年は、児童の自主的な活動としての学年集会といえる。いずれにしても、その底流にあるものは、いずれの学年においても、「自分たちは、それぞれクラスは異にするが、同学年の同級生として楽しく

やっていたら」ということにほかならない。

(6) 実施計画と記録

指導計画は教師が、児童の自治的、自発的な活動を促進し、自主的な態度の育成に基本をおき、地域の特性を考慮し、児童の希望も入れて作成するもので、年間計画は中・高学年においては、構成児童が教師の助言を得て作成するものである。それを実施するにあたっては、当然いっそう具体的な実施の計画を作成する必要がある。

次にあげる実施計画は、その意味における具体的な実施の計画およびその記録である。形式は多少学年によって異なっているが、いずれも、必要最少限の記入にとどめ、大わくのみを設定し、融通性・弾力性のあるものにした。

例として、高学年で2学年あげたのは、両者に集会の考え方、内容に大きな相違がみられ、現在の本校の学年集会で、二つの代表的いき方(教師の助言の方向)をみせているからである。両者の特徴を対比してみると

- | | | |
|----|---|----------------|
| 5年 | } | ①より楽しい会に |
| | | ②各クラスの紹介を中心に |
| 6年 | } | ①教育の重要な場の一つとして |
| | | ②学年共通問題の討議を中心に |

ということであり、次項の児童の意識調査の結果とからみ合わせて、両者の実施計画を比較してみると、そのいき方の適否は別にしても非常に興味深いものがある。

今後の学年集会の進むべき方向としては、結論的にいって、一方に偏することなく、5・6年両者のミックス型、あるいは交互実施型が望ましいものと考えられる。

低学年 —— 2年(5年型)

2年生としては初めての試みとして、児童を交えた学年プログラム委員会を開き、児童の希望も入れた実施計画を教師が作成した。

運営面でも、いくつかの係りを始めて児童たちにまかせた。その結果 児童たちの反響は驚くほど強いものがあり、今まであまり興味を示さなかった児童まで、真剣に発表を聞き、楽しく歌った。低学年においても、児童たちに可能な係りや発表者をおいたのが、効果を上げる好例であった。

| 2月23日 (金) 第10回 学年集会 | |
|---------------------|--------------------|
| 号令係 | 山口昌章 |
| 音楽係 | 柳田美子・小林包幸 |
| 会の順序 | どんなふうにするか |
| せいれつ | 大きな声で..... 号令係 |
| あいさつ | きょうの計画について..... 小島 |
| 組のお知らせ | |
| ・1組 | ・北海道の友だちから..... 佐手 |
| ・2組 | ・学習発表会のこと..... 黒川 |

| | | |
|----------|--|----|
| ・3組 | ・鉢栽培について…………… | 宇井 |
| ・4組 | ・転校してきた友だち…………… | 赤坂 |
| ・5組 | ・給食の時のようす…………… | 増田 |
| 合奏と合唱 | こぐまの2月 ハーモニカ・オルガン | |
| 終わりのあいさつ | これからの学年集会…………… | 篠部 |
| 教師のことば | きょうの学年集会の進め方と聞き方について | |
| 教師 反省 | 始めて児童に係りをさせた学年集会、児童たちは、今までより真剣に、そして楽しくであった。今後はこれで進む。 | |

○中学年 4年(6年型)

| | |
|---------------------|---|
| 2月23日 (金) 第10回 学年集会 | |
| 係り | 進行係 北林 記録係 岩田 |
| 会の順序 | どんなふうにするか |
| 1集合 | 各クラス男女二列に…………… 北林 |
| 2始めのことば | …………… 雨宮 |
| 3話し合い | 司会は進行係 |
| ・議題発表 | 学年の水道場をきれいにするにはどうしたらよいか…………… 北林 |
| ・提案理由 | 水があふれて困まる…………… 深沢 |
| ・話し合い | いままでの反省 } 内容 |
| ・決定事項発表 | どうすればよいか } 岩田 |
| 4先生の話 | |
| 5終わりのことば | 小林 |
| 反省 | 議題は、はやめに発表しておいたのだから、ひとりひとりが、もっとよく自分の意見をまとめておいてほしかった。 |
| 先生より | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見をまとめておくこと。 ○積極的に発言すること。 ○会の進め方は、たいへんよかった。 |

○高学年 5年 ①, ②はクラス名

| | |
|---------------------|---|
| 2月23日 (金) 第10回 学年集会 | |
| 係り | 学年委員長①内尾 学年副委員長④渡辺 進行係④宮沢 音楽係①岡田②松本③田辺 ④亀山 マイク係④藤本 |
| 会の順序 | どんなふうにするか |
| 1整列 | 「コ」の守型…………… 進行係 |
| 2朝のあいさつ | 先生方に前に来ていただく |
| 3始めのことば | きょうの計画 } ④楠木さん |
| | 送別球技会について } ④楠木さん |
| 4合唱(スキー) | アコーディオンに合わせて歌う…………… 音楽係 |

| | | |
|------------------|------------------|------------|
| 5各クラスから ・1組から | ○反省会の歌 | ①鈴木さん |
| ・2組から | ○ろり下の水 | ②小林君 |
| ・3組から | ○清掃日誌 | ③宮下さん |
| ・4組から | ○漢字練習 | ④渡辺君 |
| 6児童会報告 | ○転入生紹介 | 委員長 |
| 7ゲーム | ○運動具保かん | |
| ・字ぬき歌 | 送別球技会のこと | |
| 8質問 | 「かごめ」の「か」をぬく | |
| 9先生のお話 | 司会④阿部君④新藤君 | 司会④阿部君④新藤君 |
| 10.終わりの言葉 | 今月の当番の先生に、お願いする。 | 司会④田中君 |
| | 集会の反省 | ④長島君 |

| | |
|------|---|
| 反省 | ・整列がおそい ・質問が少ない ・進行にもたつきがあった |
| 先生より | ・文学作品のしょうかい ・ゲームにくふうがあつてよかった ・それぞれの係りがよくできた |

①, ②とはクラス名を表わしている。④即ち4組の児童が多く係りをしているのは、5年では、プログラム委員会の計画のもと、学年集会の実際の運営は、主催学級を決め、毎月交替で当っており、今月は、4組が主催学級に当たっていたからである。なおこれは、できるだけ多数の人が係りにつけようように、4月のプログラム委員会で考えた制度である。

○高学年 6年 ①, ②はクラス名

| | |
|--------------------|--|
| 1月19日 (金) 第9回 学年集会 | |
| 係り | 学年委員長③大塚貴男 学年副委員長④小林久及 進行係②上原滋乃 マイク係放送部 書記①北林真理子 |
| 会の順序 | どんなふうにするか |
| 1 整列 | 号令をかける 進行係 |
| 2 始めのことば | きょうの予定 " |
| 3 話し合い | 議題 司会 学年委員長 ・三学期の目標について |
| 4 今月の歌 | 雪のふる町、ペチカ しき④北林 ピアノ④小林 |
| 5 先生のお話 | |
| 6 終わりのことば | きょうの集会について ④小林 |
| 反省 | ・話し合いに発言する人がすくなかった。 ・司会にもくふうがいる。 |

| | |
|------|---------------------------|
| | ・歌はよく歌えた。 |
| 先生より | ・話し合いで、発言が多くなるようなくふうが必要だ。 |

(7) 活動記録の概要

活動記録として、5年（前記の実施計画に基づいての活動）を例とし、その概要を記録してみる。

1. 整列——進行係

「コ」の字型に整列し、係りはその前に、教師は横に並ぶ

2. 朝のあいさつ——全員で

教師5名、児童の前に並んで「おはよう」のあいさつを児童たちと交わす。

3. 始めのことは——4組 楠木ひろみ

・先週金曜日の雪合戦の楽しかった思い出

・きょうの学年集会の予定

・送別球技会の選手の練習について

4. 合唱——音楽係

音楽係4名のアコーディオンに合わせ、全員大きな声で、楽しく「スキー」を歌う。

5. 各クラスからの発表

○1組から——鈴木

1組からのお知らせと、お願いを発表します。

始めは、お知らせです。わたしたちの組では、反省会が終わったあと、毎日歌を歌っています。歌は今月の歌です。たいへん楽しいものです。ほかのクラスでも、やったらどうでしょうか。

次をお願いします。清掃の時、水をくんだあと、1組の廊下に水をこぼす人がいます。少しでもこぼすと、白くしみができますので、こぼさないようにしてください。

○2組から——小林

2組からは、お知らせを二つ発表します。

2組では、毎日放課後 漢字練習帳に、漢字一頁書いてきます。たいへんためになると思っていますので、みなさんの組でもやってみたらどうでしょうか。

もう一つは、2組では、毎日清掃の班長が清掃日誌というものをつけています。つけ始めてから、みんな一生懸命掃除をやるようになっていきます。

○3組から——宮下

3組からのお知らせは、この間「三浦博子」さんが、北海道から私たちの組へ転校してきました。北海道の北の方で、もちろん寒さは厳しいそうです。では三浦さんにあいさつしてもらいます。

「わたくしは、北海道のピンネシリから、転校して来た三浦博子です。北海道の学校とこちらの学校とでは、だいぶ環境が違いますので、まだわからないことがたくさんあります。どうぞよろしくお願いします。」

4組から 渡辺

これから、4組のお知らせを発表します。

まずぼくたちのクラスの体育係は、うしろの黒板に、ボールやバドミントンを、借りた人の名前を書いた人は責任を持ってかえし、かえしたら自分の名前を消すようにしています。このようにしてから、運動具の紛失もなくなりました。

それから、今度「交通指導遅刻表」というのを作りました。これは、交通指導をする人がおくれなように考えたものです。おくれて来ると、自分で×印をつけますので、おくれた人は一目見ただけでわかります。この表のためか、最近の4組の成績は、よくなって来ているようです。みんなのクラスでも、いかがでしょうか。

6. 児童会報告 学年委員長内尾ひろみ

今年も送別球技大会は、毎年6年生を送る最後の大会です。そこで 今月の児童会では、そのことについて話し合いました。では決ったことを発表します。……という始めのあいさつのと期日、参加学年、種目、チームの作り方、ルール、審判員、係りなど、児童会での決定事項を報告した。

7. ゲーム 司会 4組阿部・新藤

「かごめ」の歌を、始め司会者が、アコーディオンに合わせて歌い、次に全員で「か」をぬいて歌った。違った者は、その場に坐っていくという方法で、クラス対抗の「字ぬき歌」ゲームをした。……笑い声と共に何んとなくなごやかなふんいきになった。

8. 質問 司会 4組田中孝広

今までの発表やお知らせの中から、質疑応答が2・3あった。

9. 先生のお話

教師からの話は、担任5名が毎月交替で2名ずつあたり、1名は学年集会に特別関係ない話題、例えば「勇気づけるもの」「なごやかな気分になるような話」「教師の子どものころの思い出」といったものを話して聞かせる。

もう1名の教師は、今後の学年集会発展のため、本日の集会の反省をもとに助言指導する。以上2つの話を、2名の教師の話は……

○教師I 文学作品紹介

芥川龍之介の作品から「くもの糸」という話をします。……といった出だしから、「くもの糸」の概略を話、最後に、ただ見せかけだけのやさしい心でなく、本当のやさしい心でなくてはだめですと話をまとめた。

○教師K 集会反省

- ・ゲームにくふうがあってよかった。
- ・進行係、クラス発表者など、声の大きさが適当であった。
- ・発表や報告は、よく聞いて わからない所はどんどん質問して欲しい。

10. 終わりのことば 4組長島利明

きょうの学年集会は、4組が中心でやりました。全体的によくできたと思いますが、整列の時おそかった人もいました。今度の学年集会は、1組が当番で5年最後ですね。きょうの悪い点を反省し、

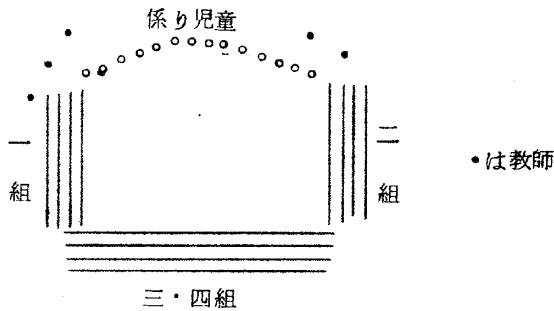
今まででいちばんよい学年集会にしてください。では学年集会を終わります。

1.1. 開散 音楽係

音楽係のひく「友だち」の曲に合わせて、1組を先頭に、昇降口より教室へ向う。

以上 本校の学年集会の活動例として、5年の学年集会の概略を紹介した。所要時間は15分で、予定時間を5分程超過した。しかし大部分の児童たちは興味を失わず、楽しく参加できたようであった。

また学年集会では、その内容と共に、整列の体形で、児童たちのふんい気、気分というものがある。左右されるので、この点 12月より実施している「コ」の字型の体形は好評である。



3 児童意識調査 (4.3.2.20調査)

児童の心の中にある意識を、教師がしっかりつかんで、指導にあたらなければ、児童の自発性、自主性を伸ばす集会活動はじゅうぶんできないし、今後の発展を期待できないと考え、下記のような調査を行なった。

○調査学年

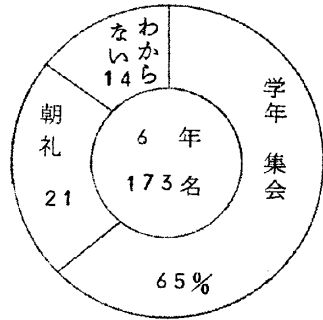
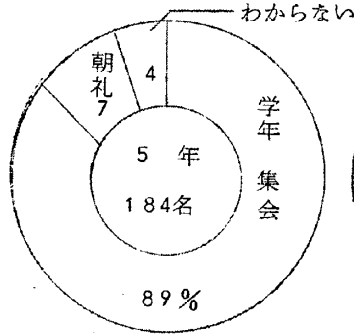
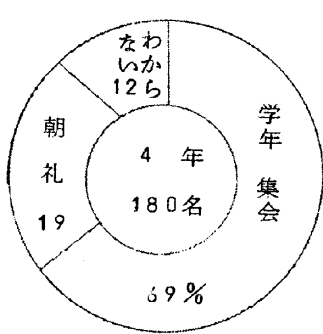
4年180名、5年184名、6年173名

○調査事項

- (1) 学年集会と普通の朝礼を比べて、どちらが好きですか。
- (2) 学年集会と朝礼を比べて、違いがありますか。
- (3) 学年集会で係りをしたり、意見や発言をしたことがありますか。
- (4) 学年集会をしたことによって、学年のみんなが仲よくなったと思いますか。
- (5) これから学年集会は、どのようになればよいと思います。

○調査結果

- (1) 学年集会と普通の朝礼を比べて、どちらが好きですか。



「学年集会」のおもな理由

- ・学年集会は楽しい
- ・いろいろあってあきない(4・5年に多い)
- ・自分たちでやるから
- ・自分たちの意見がいえる(6年に多い)
- ・他の組のようすがわかる(5年に多い)
- ・時間が短いのがよい(4年に多い)

「朝礼」のおもな理由

- ・校長先生の話がおもしろくためになる
- ・歌がないのがよい(4・6年に多い)

「わからない」のおもな理由

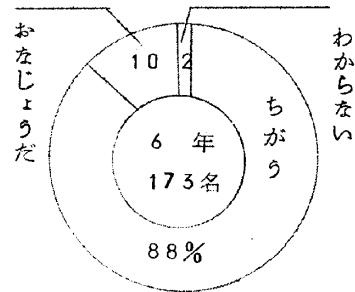
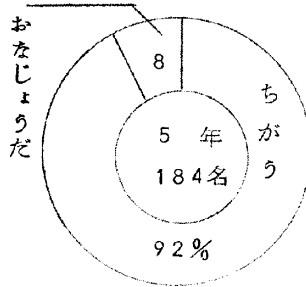
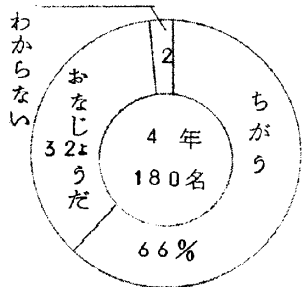
- ・学年集会は楽しいし、朝礼はためになるのでどちらともいえない。
- ・両方ともあまり好きでない

○(7)について

学年集会と朝礼を比較させたことは、問題点もあるが、ここでは学年集会と朝礼が、その外的条件(おもに室外で 学級より大きな集団でなど)に相似点が多くみられるので、その好嫌を判断するのにそれぞれの内容条件(会の内容)で児童が判断するものと考えたからである。

調査の結果は、どの学年も過半数の児童が、学年集会の方を好むと答えている。特に5年では89%の高率を示し、その理由に「他の組のようすがわかる」と答えているのは、これからの学年集会の進むべき道を示している。

(1) 学年集会と朝礼を比べて違いがありますか。



「ちがう」のおもな理由

- ・学年集会にはレクリエーションや歌がある。
- ・朝礼は先生が中心で、学年集会はわたしたちが中心
- ・学年集会では、よそのクラスのことわかる（5年に多い）
- ・朝礼は堅苦しいが、学年集会は気軽に楽しく参加できる。

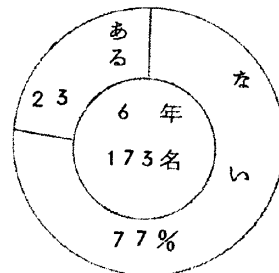
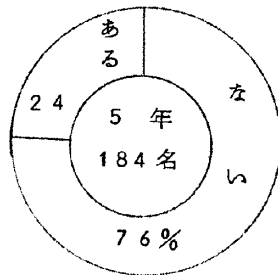
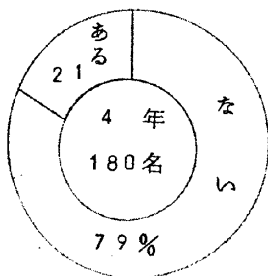
「おなじようだ」のおもな理由

- ・先生が話をするか、係りが話をするかの違いだけだから
- ・どちらも先生の話がある

㉑について

設問が㉑に類似しているため、その理由が㉑と同様なものが多くみられる。ここでは、学年集会の性格そのものの認識度と、児童たちがどう学年集会を受けとめているかを、つかもうとして設けた問であるが、ほとんどの児童は、その相違を認識しているとみてよいと思う。特に「学年集会はわたしたちが中心」とあると解答が、全学年を通じ多くみられたのは心強い。ただ4年生で「おなじようだ」が3.2%みられ、その理由をみると、あまり学年集会そのものを理解しておらぬためと思われるものが多く、学年が低いのでやむを得ないとも考えられるが、一つの問題点である。

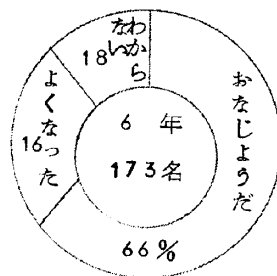
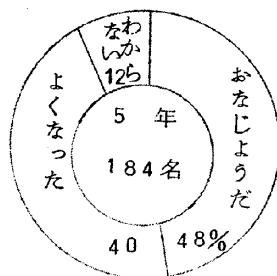
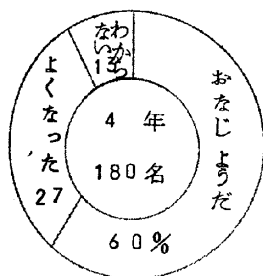
㉒学年集会で係りをしたり、意見や発言をしたことがありますか。



㉑について

全学年を通じ、この1か年間に全児童の約四分の一の児童のみが経験者ということになる。積極的に参加することが一つのねらいでもあり、そうすることが、学年集会を成功に導くカギであるとすれば、企画運営で、多くの児童が積極的に参加できるように、係りを多くの児童に、そして、発言しやすくなるような教師の助言も当然必要となる。

㉒学年集会をしたことによって、学年のみんなが仲よくなったと思います。



「おなじようだ」のおもな理由

- ・学年集会の時以外は、やはりクラスの人と遊ぶから（4年に多い）
- ・係りの人たちが多く話をするので、他の人はあまり心のふれ合いがない
- ・クラス編成替えなどで、他のクラスの人にもよく知っているので、学年集会で特に仲よくなったとは思わない（6年に多い）

「なかよくなった」のおもな理由

- ・他のクラスの、よい点をまねることができるから（4年に多い）
- ・全員が集まった時、仲よくなる。
- ・他のクラスのようにすがわかってきたので、話しやすくなってきた（5年に多い）
- ・歌ったり、話し合ったりするので
- ・みんなで話し合っ、心が通じてきた（6年に多い）

「わからない」のおもな理由

- ・年間に数少ない学年集会では判定は無理（6年に多い）

（四）について

年間12回の学年集会では、「わからない」の理由にもみられるように、この種の判定は無理があるかと思える。このようなことが、特に6年生において「おなじようだ」「わからない」と解答した児童を多くしているとみられる。ただ全学年を通じ、学年集会を一つのきっかけとして、仲よくなったと考える児童もかなりあるのは、学年集会の一つの成果といえると思う。なお5年生において、「なかよくなった」が40%と、4・6年よりはるかに高率を示しているのは、「他のクラスのようにすがわかってきたので、今後の学年集会の内容の一つとして、進むべき方向をあたえていると思う。

（五）これからの学年集会は、どのようになればよいと思います。

○4年生のおもな意見

- ・注意でなくほめ合い会に
- ・レクリエーションを多くして楽しい会に
- ・みんなが発言できるように
- ・集会の前にやることを知らせて欲しい

○5年生のおもな意見

- ・多くの人に関りに（交替で）、そして多くの人が意見を述べ合う会に
- ・レクリエーションをくふうして楽しい会に、
- ・内容をくふうして、いつも同じような会でなく
- ・集会の前にやることはやく知りたい

○6年生のおもな意見

- ・多くの人に係りを
- ・いつも同じ内容でなく新しいくふうを
- ・レクリエーションを多くとり入れて楽しい会に
- ・みんなが活発に意見が出せるように、問題点（議題）をはやめに発表して欲しい

。(オ)について

全学年を通じていえることは、「楽しい会に」ということで、これは学年集会のねらいからみても、当然考えていかねばならない。はやめに会の内容を知らせておくことは、活動を活発にするために極めてたいせつなことである。また5・6年生に多く見られた「多くの人に係りを」は、児童が積極的に参加したいという意欲の表われとみられ、今後じゅうぶんに検討させなければならないことである。また内容をくふうして、マンネリを防ぐ(5・6年)ことも目的を射た意見と云える。

・意識調査全体から

調査の結果から判断すると、児童たちは学年集会がどのような意義があるかを、特に高学年は、ほとんどの児童がしっかりとつかみ、そして真剣に、かつ自分たちの集会として、それをたいじに育てて行こうとする意志が見える。しかもその意見は、学年集会のあり方目的を射たものが多く見られる。また各学年共通に、学年集会に楽しさを求める声の多いことも、印象的であり、今後の集会の企画に、じゅうぶんに生かしていくべきものと思う。

(9) 学年集会のよりよいあり方について、教師の助言の手びき

前項の児童の意識調査の結果を参考にして、教師の児童への助言の手びきともいえるものをあげてみる。

・事前に

- ・内容に新鮮味をおり込ませる。 マンネリ防止
- ・係りをなるべく交替で多くの児童に 積極的参加への誘い
- ・はやい機会に、集会の内容を全員に知らせるくふうをさせる 積極的参加への誘い
- ・クラスの紹介を意図的にさせる 仲間意識

・活動時に

- ・多くの人から、意見を引き出させるくふうをさせる 積極的参加への誘い
- ・なるべく楽器を多くとり入れさせる 楽しいふんいき
- ・レクリエーション、歌などおもしろく楽しく 楽しいふんいき

教師としては、集会の場を利用しての、集会な直接関係のない、教師の諸注意を努めてさける。

・事行に

- ・決定事項の徹底化 学年集会の信頼、意欲化
- ・記録と反省をしっかりとさせる。 集会の向上

(10) おわりに

学年集会実施2か年をふり返っていえることは、「児童の意識調査」の結果からも見られるように、ともかくも最初のねらいであった、学年間の児童の連絡や協力の姿勢が芽ばえ、ふじゅうぶんにしる児童たちが、自分たちの学年の生活をより楽しく豊かにしようと、自主的に計画し、実行しようとする機運が着実に見えてきている点、一つの大きな成果ではないかと思う。そして、この機運が、やがて学年から学校へと広まりを見せて、その他の教育活動とあいまって、学校生活を楽しく豊かに

するために、創意くふうしていこうとする気風につながるものと考えている。

以上多くの問題点をかかえながらも、歩み出した。柳原小学校の学年集会のようすをご紹介し、多くの先生のご批判とご指導を、心よりお願い致す次第であります。

感 想

学年児童集会について

学年児童集会活動の必要性は、じゅうぶん承知しているようであるが、実施するまでにいたらない学校が多い中で、柳原小学校では、組織・時間・場所を明確にして、学年別ねらいおよび期待される学年別能力段階を設定したり、意識調査で児童たちの要求を知って、指導助言にあたっていることは、他校の参考になる事項である。

発達段階に即した指導助言のゆやすを、共通理解して活動に取りかかれれば、児童たちのもっている力をじゅうぶん発揮させることができるので、特別教育活動でねらっている、自発性・自主性を育てるよい機会である。

実施計画の記録（反省）では、児童・教師ともはじめによかった点を認めるようにまとめて、次回の意欲をもりたてるようにする必要がある。